



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和7年 10月 31日
つばさだより 第8号

～今日の学びより～「自分の感覚を意識する。相手を意識する。」

つばさ教室での小集団指導（グループ指導）では、相手との「かかわり」を通していろいろな自分に気付くことをめあてにした学習が多くあります。人の「かかわり」には多くの大切な要素がありますが、その中の一つは「相手への意識」です。自分の認識や感覚だけでは相手と良い関わりをつくることはできません。そのため、相手に意識を向ける場面を設定しながら学習していきます。運動会を控えたこの時期、小集団の中では「運動会」をテーマにした「トーク」「スピーチ」を行っています。個々の意見からは「不安」「緊張」「楽しみ」「恥ずかしい」「面倒くさい」などの気持ちの言葉が出てきます。こうした感覚を「共有」して自分と同じまたは、異なる考えや感じ方があることをお互いに知り、相手はどのように感じているかに「意識」を向けていけるように指導していきます。

また、小集団で行うゲーム型の演習にもこうした指導の流れがあります。今日の中学年グループでは「電池人間」という演習に取り組みました。お手玉を頭の上に乗せて電池に見立てます。このお手玉を落とさないように歩き、お題カードを拾います。もし頭から電池に見立てたお手玉が落ちてしまったら動けなくなるので、グループの仲間に「助けて」と伝えて再度お手玉を頭の上に乗せてもらおうと動けるようになります。最後にみんなで集めたお題カードの一字同士を組み合わせると一つの言葉が出てくるという流れです、この演習の中には自分の頭に物が乗っているという感覚や、お手玉が落ちないように体幹を安定させ、ゆっくりとした動きになるように自分の動きを調整すること。相手に助けを求め、お題カードをみんなで集めるという「かかわり＝コミュニケーション」の指導のねらいがあります。

今回の指導でも「行動調整」や「かかわり」という部分で子供達は意識して動きを調整したり、自分から仲間に声をかけたりと各々に意識が向けられていたように感じました。普段、教室での約30人前後という大集団では、この自分や他者への「意識」というものはかなり「大枠」なものとなり、その自分自身に気が付きにくかったり相手に気が付きにくかったりという状況も出てくると予想されます。つばさ教室の小集団指導ではお互いが自分に気が付き、相手に気が付くそんな経験を日々の演習で積み重ねていこうとします。

いろいろ疲れた体にストレッチを（再掲）

これは「ネコちゃん体操（検索していただくと色々な動きが図解でわかります）」という体操の一部です。腰や肩、首にかけて体幹コントロールを意識した動きになっており、わずか数分の動きの後にはかなり体がすっきりするというものです（その他にも、足裏ツボマッサージや足指間マッサージなどを組み合わせた刺激を取り入れることもできます）。自分の疲労に気が付きにくい、忙しい子供たち。必要に応じてこうした体操でストレッチすることも体調を整えていく材料になりますね。

